



自転車地球温暖化防止

季節は秋、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋・・・今年には自転車の秋で地球温暖化防止に一役買ってみませんか。

§

地球温暖化は人間活動によって排出される二酸化炭素等の温室効果ガスにより気温が上昇し、地球的規模で環境に悪影響が生じる現象です。1997年に京都で開かれた「気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）」では、

2012年までに先進各国が達成すべき**温室効果ガスの削減目標**を定めた「京都議定書」が採択されました。

議定書については、米国の離脱によりその効力を疑問視する声もありますが、ロシアの合意が得られれば、発効要件（締約国55カ国以上、締約国のうち先進国の温暖化ガス排出量が全先進国の排出量の55%を越えることの2条件）を満たし、来年にも削減対策が動き出します。

排出を削減するために講じる様々な対策のうち、家庭で出来る対策の一つとして“**車の利用を控える**”ことが挙げられます。

日本における二酸化炭素排出量は、20.9%が運輸部門から、そのうち55.1%が自家用車から排出（資料：環境庁）されており、温暖化への影響は無視することが出来ません。車の利用を控え、温暖化ガスの排出を減らす努力が必要です。

車に代わる交通手段としては電車やバスなどの公共交通機関がありますが、ここにきて注目されているのが“**自転車**”です。

§

日本における温暖化ガス削減対策の基本方

針となる「地球温暖化対策推進大綱」では、「国民の生活様式（ライフスタイル）を見直す」ことが必要であり、「交通渋滞等の緩和につながり、化石エネルギーを利用しない**自転車利用を促進**していく」ことが主要な対策の一つになっています。

この“**化石エネルギーを使用しない**”という点は電車やバスにもなし得ない自転車ならではの**特徴**といえます。

§

かといって全てを車から自転車にとって変えることは出来ません。次の試算をご覧ください。

<p><u>週2日、往復8kmの車の利用を控える</u> CO2削減効果：約185kg/年 節約効果：約8000円/年（環境省）</p>
--

ケースとしては、ちょっとした買い物や通勤等が考えられます。自転車を時速20kmとして12分（片道4km）、ゆっくり走っても15分程。このような取り組みであっても**温暖化防止に貢献**できるのです。本県においても、近距離の出張は車を利用せず、県庁内に整備した共用自転車を利用する、といった取り組みが行われています。

また、自転車の利用を推進していくためには、自転車を利用しやすい環境整備が欠かせません。自転車に配慮した道路や、駐輪場の整備等、ハード面での充実が期待されます。

§

この秋、まずは自転車を漕いでみませんか。こちよい風をうけながら地球温暖化ガスの排出削減に貢献できます。併せてあなた自身にも削減効果があらわれるかもしれません・・・。
（環境科学部）